

やわらぎ歯科会通信

第 26 号

平成15年
6月20日号

編集発行人
やわらぎ歯
科診療所
藤田和也
編集者
山下剛史

般若心経に触れて

今年三月にお四国(お遍路)に行つてきました。お寺にお参りすると、最低二回は般若心経をあげるのですが、何やら分かったような分からないような、ただ口から声を出している状態でした。これがきっかけで、歩き終えて家に帰ってから、弘法大師の書かれた「般若心経秘鍵」という本を読み始めました。

般若心経の最初に「観自在菩薩行深般若波羅密多時照見五蘊皆空度一切苦厄」とあります。弘法大師空海はこゝを、

「表面的な現実世界(五蘊)の背後にある真実の世界の法則や摂理(空)

がよく見えるように(照見)修行をして(行深)

悟ることができれば(菩薩)一切の苦しみにとらわれない境地に至るものです(度一切苦厄)」と解説されています。

また、学生の頃は、「色即是空空即

是色」とは、すべての物には実体がないので、とらわれずに生きようという意味だと考えていました。

しかし、実は大きな意味が隠されていることに気付きました。目に見える現実世界(色)を成り立たせている目に見えない法則(空)は根本的には表と裏の関係にあるわけです。患者様が訴える主訴(色の世界)には必ずそれを成立させている原因(空の世界)があります。私達の仕事はその(空)を明らかにして行くことだと考えています。

仁保一丁目のこの場所で開業して、すでに二十年が過ぎようとしています。どうしたら人様のお役に立てる診療ができるだろうかと色々な先生に師事して勉強したり、自分で顎関節や咬み合わせの研究を行ってきましたが、まだ最終的な結論は出ていません。しかしながらこれまでの二十年間の人生経験は少しばかり物事に対する理解能力を増してくれたように思います。お四国を歩いたことさえも。(藤田和也)

かめるっち

歯を失ってしまったら...

そんな場合はブリッジや義歯を入れると再び噛めるようになりますが、さらにインプラント(人工歯根)は、今までの歯と同じように噛む事が出来るようになるという大変利便な治療法です。

最近そのインプラントに実際の歯根と同じような根元が太くて先に行くほど細くなる形状の新製品が出ました。今までは普通のネジと同じ形のがほとんどでしたので、かなりの進歩といえます。インプラントの材料であるチタンは生体との親和性がよく、一九六〇年に骨となじみが良く骨と結合することが発見されました。その五年後には実際の患者さんに応用され、以来三十八年間その歯は機能しつづけているそうです。現在までに百四十万人以上の人がその治療を受けられています。今後ますます普及していくことでしょう。

耳よりコーナー

「歯磨き粉は何を使ったらいいのですか？」歯磨きなどの指導を行っていて、よく受ける質問です。なるほど、売り場に行ってみてもあまりの種類の多さに戸惑ってしまいます。

歯磨き粉の中には、研磨剤(歯の表面の汚れを落とす)発泡剤(歯磨き剤を口の中に拡散させる)

香味剤(爽快感を与える)薬効剤(薬用成分により虫歯や歯周病の予防効果を高める)などが含まれています。

それぞれ、目的や好みにあった選び方をすればよいと思います。一日にお茶やコーヒーを多く飲む人は研磨剤の入ったものを、歯がすり減りがちな人は研磨剤の入っていないジェルタイプなどを、引き締まった感じが好きという人は塩入を、子供用にはフッ化物の入ったものをとるように。でも歯磨き粉は魔法の洗剤ではないことを忘れないように！

ぱぱーみんと

マリコ・フラウトシエ・深山八重紫・昭和の紫・隅田の花火：散歩の途中のガードレール沿いに、白い名札が並んでいます。何の花の名前かわかりでしょうか。▼五月晴の頃には、うつむきかげんで色も薄かった花びらが、6月の雨の下で日に日に鮮やかさを増していきます。紫陽花(あじさい)は、日本の梅雨にあたり前すぎるほど似合うらしく、全国あちこちで紫陽花祭が開かれるようです。雨の季節には、雨の楽しみがあるものです。▼花の好きな母が、魚箱いっぱいにさし木をしていたのもこの季節でした。ことに紫陽花は、さし木もしやすかったのか、

良い苗を作っては家の回りにこもりした紫陽花の茂みが増えていきました。涼しい山あいでは、盛夏の頃には、それが立ち枯れのままドライフラワーのようにになります。雨の日にそんな光景を思い出して、たまには老いた母にはがきでも書こうと思



※同封していますレセプト(保険診療報酬の明細)のコピーは平成十五年 五月にお受けになられたものです。自由診療のみの方には、同封されていません。